



あっぱれ!

親方・匠

町田市立小山田小学校
柏葉 昭人 先生



芝生を育てるのは子供を育てるのに似ている

今回は、平成30年度に匠に認証された、町田市立小山田小学校の柏葉昭人先生をお訪ねしました。

●地域初の校庭芝生化。維持管理のリーダーとして

平成22年に町田市初の校庭芝生化をした小山田小学校で、着任6年目になる柏葉先生。幼少期から芝生を管理する大人を目にしていたこともあり、自然に知識を身に付けられる環境に恵まれていたそうです。体育主任を務め、また現在13人制ラグビーの日本代表として、国内外の競技会で様々なグラウンドを訪れた経験があります。

児童数減少やそれに伴う管理者不足の課題に直面しながらも、「自分たちで使うものは自分たちの手で管理」をモットーに、維持管理の中心人物として芝生の維持に携わってきました。



●児童の運動時における安全面にも一翼を担う

「芝生化のメリットですが、一番はケガをしにくいことですね。ゴロゴロと寝転がることができる遊びは芝生ならではの味わいですし、裸足で駆け回ること体幹バランスも養えるのではないかと考えています。」とおっしゃる柏葉先生。芝生の周りに砂地のトラックを作って使い分けることにより、小さな校庭で芝生を上手に休めながら生かしていく工夫をしています。

芝生の存在が地域の触れ合いの中心の場になるよう、毎年近隣高校の吹奏楽部を招いたコンサートを催すなど、児童のみならず、保護者の方や地域とのつながりをより一層深められるような芝生の活用にも取り組んでいるそうです。



●愛情を持って向き合う分だけの変化が見られる

「芝生を育てるのは子供を育てることに似ているな、と感じることが多いんです。マニュアルに頼りすぎず自分の目で見て動くことが必要ですね。作業自体に楽しみを見いだしたり、芝生に愛着を持ち、長い目で見てコツコツと向き合うことも大切です。今後、維持管理を担う方々にもそういった気持ちを持ってもらえるよう引き継げたらと思っています。」と、維持管理者として芝生に密接に関わる正に「匠」の視点で語ってくださいました。

